

ヨハネ12章 ナルドの香油

ヨハネ12:1 イエスは過越の祭りの六日前にベタニヤに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。
 ヨハネ12:2 人々はイエスのために、そこに晩餐を用意した。そしてマルタは給仕していた。ラザロは、イエスとともに食卓に着いている人々の中に混じっていた。
 ヨハネ12:3 マリヤは、非常に高価な、純粋なナルドの香油三百グラムを取って、イエスの足に塗り、彼女の髪の毛でイエスの足をぬぐった。家は香油のかおりでいっぱいになった。

黙示録21章4節

彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。
 もはや死もなく悲しみ、叫び、苦しみもない。
 なぜなら以前のものが過ぎ去ったからである。

賛美歌 391

ナルドのつぼ ならねど
 ささげまつる わが愛
 御業のため 主よきよめて
 うけませ うけませ

あずる者に平和を
 なげく者に のぞみを
 わかちて主の深き恵み
 あらわさん あらわさん



ベック兄メッセージより

「イエス様はかつて、ペテロにあなたは私を愛するかと、訊いたのであります。もし、私たちが、このイエス様の質問に対して、『はい、あなたを愛します』と真心から言うことができれば、本当に素晴らしいと思うんです。

ひとつの実例は、ベタニヤに住んでたマリヤではないかと思うんです。

マリヤという人は、本当に真心から、イエス様を愛した人だったんです。だから、彼女は真の礼拝者でした。彼女は、非常に値の高いナルドの匂い油を主に降り注ぐことにより、実に高い、また、聖い主に対する愛を示してくださったんです。彼女の取る態度によって、ベタニヤというところは、主に対する愛が満ち溢れたところになったのです。そして、福音書にナルドの匂い油の匂いが、家全体に満ちたと書いてありますが、それと同じように、愛の雰囲気がこのベタニヤの家を包んでいたのです。結果として、多くの人々は、その後で、やはりイエス様のみもとに導かれるようになり、救われたのです。その時、非常に大切だったのは、マリヤがああ態度を取ることで、主は大いに喜んだのです。満足してくださったのです。

主に対するこのようなマリヤの愛は、主が何にも増して求めておられるところのものであります。イエス様は、私たちが心からすべてを捧げ、主を愛しているかどうかを見ておられます。本当に、私たちは主だけを見て愛してのではありませんでしょうか。あるいは、世の物も目に入り、主に全てを捧げることをしないのでありませんでしょうか。

マリヤは、イエス様を分裂のない真実の愛を持って愛しました。だから、彼女も御心にかなう礼拝者となったのであります。我々の人生の特徴が礼拝そのものであるならば、本当にさいわいだと思います。それによって、周りの人々も飢え渴きを持つようになり、導かれるようになり、そして、主こそが、すべての栄光と誉れを受けるようになるからです。」

ヨハネ11章32から33節

マリヤは、イエスのおられた所に来て、お目にかかると、その足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」そこでイエスは、彼女が泣き、彼女といっしょに来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧

になると、霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて、

ヨハネ21章17節

イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか。」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいっさいのことをご存じです。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。」

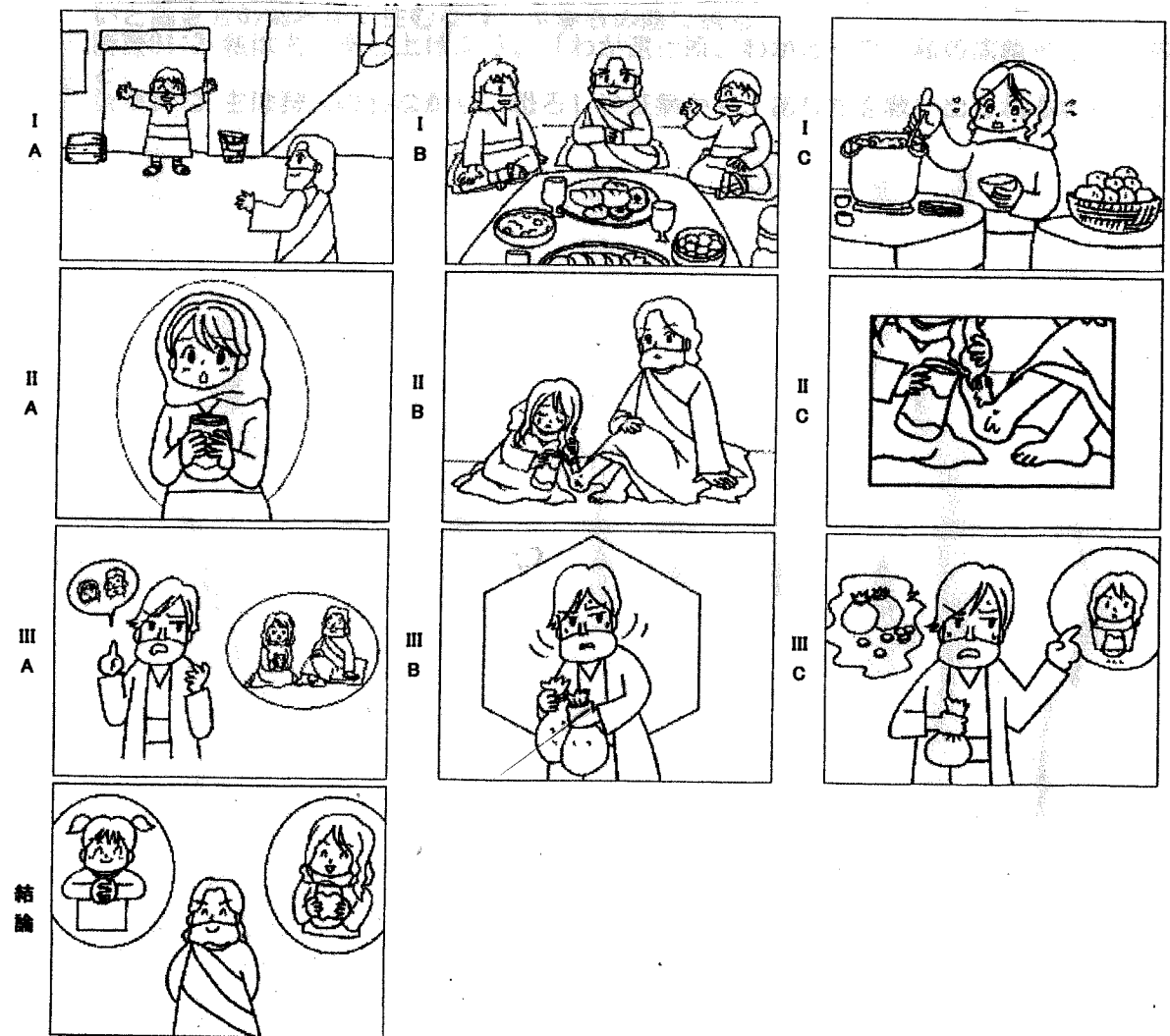
マタイ26章72から73節

それで、ペテロは、またもそれを打ち消し、誓って、「そんな人は知らない。」と言った。しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる。」と言った。

2コリント1章4節から5節

神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。

詩篇91篇 1から3節
 P-916



結論